

平成 20 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会

(第 1 回)

議事概要

◆日 時 平成 21 年 1 月 30 日 (金) 14 : 00 ~ 17 : 15

◆場 所 奈良県新公会堂 会議室 1 ・ 2

◆出席者

<委 員>

井上 龍一	奈良教育大学附属小学校 教諭
川瀬 浩	日本野鳥の会奈良支部 支部長
木佐貫博光	三重大学 准教授
佐久間大輔	大阪市立自然史博物館 学芸員
柴田 叡弑	名古屋大学大学院 教授
高田 研一	高田森林緑地研究所 所長
高橋 裕史	独立行政法人森林総合研究所関西支所生物多様性研究グループ
高柳 敦	京都大学大学院 講師
田村 義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長
鳥居 春己	奈良教育大学教育学部附属自然環境教育センター 准教授
長嶋 俊介	鹿児島大学多島圏研究センター 教授
野間 直彦	滋賀県立大学 講師
日野 輝明	独立行政法人森林総合研究所関西支所野生鳥獣類管理チーム長
日比 伸子	橿原市昆虫館 資料学芸係長
前田 喜四雄	奈良教育大学教育学部附属自然環境教育センター 教授
松井 淳	奈良教育大学 教授
槇村 久子	京都女子大学 教授
村上 興正	元京都大学 講師
横田 岳人	龍谷大学 准教授

(以上敬称略)

<関係機関>

国土交通省近畿運輸局奈良運輸支局	井上 景之 首席運輸企画専門官
林野庁近畿中国森林管理局	
計画部計画課	山口 輝文 計画課長
箕面森林環境保全ふれあいセンター	上村 邦雄 自然再生指導官
三重森林管理署	鳥谷 和彦 流域管理調整官
奈良県	
文化環境局観光振興課	杉村 和彦 主査
農林部森林保全課	若山 学 主査
くらし創造部景観環境局自然環境課	中川 康博 係長
三重県環境森林部自然環境室	萩原 純 副参事
上北山村建設産業課	南 友二 主事

川上村地域振興課
大台町宮川総合支所産業室
吉野熊野観光開発（株）

辰巳 龍三 主事
枘田 満 係長
林 彪 専務取締役

<事務局>

近畿地方環境事務所

瀬川 俊郎 所長
田邊 仁 統括自然保護企画官
杉田 高行 国立公園・保全整備課長
高橋 勝志 野生生物課長
松井 裕 自然再生企画官
角 智則 自然保護官
櫻又 涼子 自然保護官
吉澤 泰輔 自然保護官
山本 昌代 係員

吉野自然保護官事務所
（財）自然環境研究センター
（株）環境総合テクノス
環境設計（株）

濱名巧太郎 自然保護官
千葉かおり 第2研究部部長代理
樋口 高志 環境部リーダー
中橋 文夫 取締役
三尾 尚己

◆議 事

(1) 大台ヶ原自然再生推進計画（第1期）の評価について

① 森林生態系保全再生に係るこれまでの取組と評価（案）の概要について

- ・ 生物多様性の観点から見れば、生物間相互作用への影響やその機能についての考え方を盛り込むことも必要ではないか。
- ・ 地表処理については、場所や植物種によって一律ではないので、「優劣」という表記ではなく、「有効性」とするべき。
- ・ ドライブウェイ沿いの法面植生についてはシカの餌という観点から重要である。これまでの視点では欠けており、今後の課題である。
- ・ 外来植物の持ち込みについて、植え込みや法面植生についても注意が払われてこなかった経緯があるのは反省すべき。

② ニホンジカ個体群管理に係るこれまでの取組と評価（案）の概要について

- ・ 生息密度センサスの時期は秋であるが、植物へのインパクトが最も大きくかかるのは夏である。生息密度の調査は夏の時期に行うべきではないか。
→糞粒法という手法上、秋に調査を行うことはやむを得ない。高橋委員が行っている調査結果との相関関係等を見て評価したい。
→これまで夏に実施した区画法調査から、夏の生息数変化の傾向も把握できている。
1996年、1997年は秋と並行的な推移をしていた。
- ・ 昨年の夏には三重県側のミヤコザサ草原で一時に数百頭のシカが確認されたこともある。西大台と東大台のシカのふるまいの違いも示されておらず、不十分ではないか。全国のシカ問題の対策についてモデルになるよう期待している。
- ・ 生息数の算出については東大台と西大台の密度差を考慮して算出すべきであろう。西大台では増加傾向にあるようだ。防鹿柵により囲まれたことで、それ以外の地域への影響も大きいと考えられる。
→ニホンジカ保護管理部会で検討している。
- ・ 大台ヶ原だけではなく、奈良県、三重県が収集している周辺地域のデータも書き込んでいくことが必要。
→相手があることであり、どこまで書き込めるかは難しいが、広域的な取り組みは重要な課題である。まずは、大台ヶ原における対策をしっかりとすることが必要と考えている。
→広域的な取組については第2期計画において強化していきたい。（環境省）

③ 新しい利用の在り方推進に係るこれまでの取組と評価（案）の概要について

- ・ 第1期では利用調整が目玉であった。今後、他の部会との協力を含め多様な主体の参画で進めて行きたい。
- ・ 山上での取組だけではなく、現在行われている巡回展等のような街中での普及啓発は、潜在的な利用者の動機づけともなる取組なので、ぜひ付け加えてもらいたい。
- ・ 利用者数の減少理由についてはどのように評価しているのか？
→複合的な原因があると考えられ、一概に答えるのは困難であるが、社会的な状況については分析をしているところである。
- ・ 子供達にもアピールできるようなポスター等があると良い。

- ・ 公共交通機関利用促進というが、奈良市内からですら、日帰りではゆっくり帰って来られない現状がある。
→ 今後は様々な社会実験に取り組んでいきたい。他部会との共同プログラムも考えていきたい。

2. 大台ヶ原自然再生推進計画（第2期）（案）について

① 第1章「自然再生の取組に至る経緯と背景」

- ・ p.1-6の「コケモモウヒクラス域自然植生は、大台ヶ原と大峰山系の八経ヶ岳周辺のみに孤立して分布しており」の「大峰山系の八経ヶ岳周辺のみ」はもう少し下に拡がっているので「大峰山系の稜線部」くらいの表現がよい。
- ・ p.1-11の相観植生図の「トウヒ群落」について、三重県側のトウヒは伐採された経緯がなく原生的だが、ヒノキが混じっている。トウヒ群落と断定的に記すのではなく、「トウヒ等針葉樹林」や「トウヒ群落等」のように書いた方が適切ではないか？
- ・ ウラジロモミ群落にもヒノキが混じっている。主に何が占めているかで決めているので、「トウヒ群落」で現状はよいのではないか。
- ・ p.1-16の土地利用の図については上北山村、川上村、大台町の位置を表示すべき。

② 第2章「自然再生の対象となる地域」

- ・ p.2-3の土地所有の図に関しては環境省の土地だけでなく、国有林等についても示しておいた方がわかりやすいのではないか。
- ・ UNESCOのMAB地域については示しておく必要はないか。
→ 本章には示していないが、第1章の表中等に記載している。（環境省）

③ 第3章「対象地域内の現状と課題」

- ・ p.3-1の図が見にくい。正木嶺は正木峠で統一すべき。
- ・ p.3-17の表3-1-10にある「生息に関わる環境条件」の記載は必要か？これらの環境条件は調査しているのか？
→ 現在は調査していないが、検討の一つである。（環境省）
- ・ p.3-29の表3-2-2が見にくいので修正すること。
- ・ p.3-30の表3-2-3の（ ）内は捕獲効率であることを書いた方がよい。
- ・ p.3-31「③生息環境整備に係る課題」の項は「検討を行う」という表現が多すぎる。もっと積極的に書くべき。
→ 「きめ細かな保護管理を進める」「連携を強化する」に修正する。（環境省）
- ・ p.3-35の大杉谷線歩道について、復旧工事に着手している旨の記述は正確に。（大台町）
- ・ p.3-39の利用マナーの写真については、これらの行為が良くないものであることがわかるよう、誤解されないような表現を。
- ・ p.3-41の景観に配慮した空石積み工法という文が削除されている。この工法については積極的に評価するべきではないか。図も入れてはどうか。
→ 内容に入れる。（環境省）
- ・ p.3-40、41にも関係する写真や模式図等を入れた方がよい。

④ 第4章「自然再生の基本的な考え方」

- ・ 「4. 関係者間の連携」の中に川上村も入れるように。
- ⑤ 第5章「自然再生の目標」
- ・ p.5-1のコウモリの種名について正確に記す。
 - ・ p.5-1の「多雨林特有の」という言葉は違和感がある。取った方がよい。
 - ・ 「多雨林特有の」を「健全な」に修正する。
 - ・ p.5-1に生物間相互作用についての記述を加えた方がよい。
 - ・ p.5-3の新しい利用の在り方の「自然の大切さを学ぶこと」について、もう少し具体的な内容を書き込むことはできないか。
→「自然教育」「エコツアー」等の言葉を入れて考えてはどうか。
 - ・ p.5-3の総合的な利用メニューの充実の「利用者が」を「利用者等が」にした方がよい。
- ⑥ 第6章「目標達成のために実施する取組と評価方法」
- ・ p.6-4のニホンジカの保護管理について、西大台のシカが何を食べているのかよく分かっていない。その点に関しては調査をするべき。
 - ・ p.6-7「4. 横断的取組（2）成果の活用」の中に「標本管理」に加えて「展示」も付け加える。
 - ・ ここでいう横断的取組というのは、そもそもは部会間の協力等を指していたのだが、第2期の計画でもそういうことか？
→そのように限定的に考えているのではなく、より幅広い意味で捉えてもらいたい。（環境省）
 - ・ 森林生態系の調査については、台風の影響などにも注意して、倒木についても、把握しておくべき。
- ⑦ 第7章「実施体制等」、第8章「全体スケジュール」
- ・ p.8-2の図は図番号をつけるべき。
 - ・ この表に国有林等のスケジュールは書き込めないか？その方がわかりやすいが。

[文責：近畿地方環境事務所]